

# みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年8月23日(金) (19時00分～20時30分)  
開催場所 丹波校区公民館  
参加者数 市民…35人  
指宿市…市長他15人

総計51人

## 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

## 意見交換内容

### 【市民】

・今、地区にごみ収集所が7か所あるが、収集箱いっぱい入っている。丹波校区全体としてどうなっているのか。また、地区加入者は地区のごみ収集所にごみを出してもいいが、地区未加入者は出してはいけないという判断ができない。市の方針を決めて欲しい。市の方針が決まれば、私たちも言える。市民に対しても説明をして欲しい。

<市長>

・ごみ出しマナーを何とかしなければならないというのが、市が本当に頭を悩ませているところである。自治会に入っている方はマナーを守りながら出しているのに、入っていない人がマナーを守っていない状況も見られる。皆さんの意見を聞きながら、今後の方向性を見出さなければならないと思う。

<市民生活部長>

・転入の際は、できるだけ自治会に加入するように案内している。加入された方には、館長さん方や立会人が指導するので、ごみの分別がきちんとされているようだが、未加入者にマナーの悪い方が多い気がする。未加入者にすれば、ごみの収集は市が行うものであるとの考えがあるので、地道に指導し、地区への加入も促進したい。

<市長>

・公民館に加入しないと、ごみ出しは大変だというシステムができればよいというご意見だと思う。できるかわからないが、公民館に加入している人はごみ袋が20円、加入していない人は50円で、その収入は公民館またはその管理に充てるといったような取組みができないものかと思う。ごみ出しの先進地である水俣市や大崎町、志布志市などで研修をして、今言ったような問題解決に努めなければならないのではと思う。「本当に、ごみ出しマナーが悪い」とどこの集落も悩んでいると思うので、ある程度、強制的な制度ができるのかを含めて、実行力、そして効果のある取組みを見出していきたいと思っている。

### 【市民】

・山川地域では、ごみ収集所に指定された方の名前が記入されている。瀧山地区では、鍵をかけている所もある。ごみを入れやすいような状態になっているので、マナーが悪いのだと思う。先日も環境政策課に依頼し、「5年以下の懲役または1,000万円以下の罰金」と書かれた不法投棄防止の黄色の看板を貼った。大牟礼で3か所付けたが、それでも効果はない。マンション等へ勧誘に行っても、ほとんど地区には加入しない。もう少し、具体的な政策、案を考えてもらいたい。

<市長>

・館長さん方は、ごみ問題から自治会活動に参加していただく取組みまで、本当に頭が下がる思い

である。今いただいた意見は大切に、また担当課でも話し合わせたい。

**【市民】**

・指宿市役所とは、何の仕事をする所であるのかという疑問がある。それに、職員は勉強をしているのか。専門書や自分の仕事について、どれだけ勉強をしているのか非常に疑問である。

<市長>

・市役所職員のプロ意識というか資質を高めて、本当に市役所が市民に役立つ所として頑張っているのかというご意見だろう。そういう意味では、市役所の職員は、色々な研修等を通して頑張っていると思う。ごみ問題については、市役所と市民の意識に差があるのではという意見でもあろうかと思う。もっと頑張らなければならない。

**【市民】**

・無責任であると思う。市民が無知だから、市役所が悪いことをしても指摘ができないのでは。

<市長>

・職員が専門性を持って対応することは、非常に大切なことであると思う。市民一人ひとりに対し、真摯に対応してもらいたい。市役所の透明性、説明責任についても、広報紙等により市民にはできるだけわかりやすく理解してもらえよう努力をしているつもりである。

**【市民】**

・広報の係にも直接電話をしたが、市政についてみんなで語る内容の記事を2ページ位入れてはどうか。随筆のようなものは、文芸誌ではないのだから要らないと思う。

<市長>

・市民にわかりやすい情報提供に努めているので、ありがたい意見である。

**【市民】**

・ごみ収集所に出された燃えないごみに、注意を促す赤紙が貼り付けられた。今までは、そういったごみを取りに行き私が分別をしていたが今はしていない。赤紙が貼られごみが、2か月ほどそのまま置いてある。名前も書いていないのでそのままにしているが、通りの所で目立つため、もう少し早めに引き上げてもらえないだろうか。

<市民生活部長>

・現場を確認して、来週の頭にでも処分したい。

**【市民】**

・場所は、岩下眼科の通りである。不法投棄防止の黄色の看板を掲げているが、周囲の方から、「通りの多い所に、あんな看板を掛けて見苦しい」という電話がきた。しかし、ごみ出しマナーを守らなければならないことを、みんなに気付いてもらうために看板を掛けた。

<市長>

・ご指摘があったので、点検をして担当にすぐに対応させたい。

**【市民】**

・広報活動は、非常に大事だと思う。市民全員に対して、平等に広報をして欲しい。今日のこの会で、「ふるさと未来の海 砂浜の再生」について知らされているが、市民全体にどのように広報されているのか。

<市長>

・このような事業をするときには、皆さんが一人でも多く関心を持っていただくためにも、大切なお意見だと思う。

<建設部参与>

・来週、協議会で幹事会等を開き、公民館長さん方を含めてお願いをする。他には、9月の広報紙にチラシを挟み込んだり、市役所ホームページのイベント情報に掲載をしたりしながら広報に努めたい。

<市長>

・みんなで、この海と海岸をどうするのか考えるためにも、今後の広報活動について検討したい。

**【市民】**

・指宿は、砂むし温泉が全国的に有名である。この前も、大勢のお客さんが来ていた。今の護岸と砂むしの間の海を埋め立ててヤシを植えるなど、もう少しお客さんが指宿に来てよかったと喜ぶような策を考えるべきである。

<市長>

・今、砂むしを含めて海岸についても、住民の知恵やアイデアをいただきながら企画をしている。今度、シンポジウムもあるので、ぜひお越しいただきたい。指宿を盛り上げて、指宿らしさを醸し出すというご意見をいただいた。

**【市民】**

・どこの地区でもそうだと思うが、空き家や廃屋が年々多くなってきている。窓ガラスが割れた空き家などは非行の源にもなるので、市の方でも対応策を考えていただきたい。

<市長>

・これは、議会でも問題になった。市によっては、空き家対策条例を作り、様々な取組みをしているところもある。空き家対策は、指宿にとっても大きな課題である。安全上、やはり空き家は少なくしていく必要があると思う。

<総務部長>

・今日も、空き家について相談にみえた方もいた。空き家対策については、担当の危機管理課でも、条例や規則等で何らかの扱いができないものか検討している。実は国の方でも、空き家対策を法律で定めて対応していこうという動きもある。市としても、国の法律制定の状況を見ながら、条例や規則等で定め、補足して対応していこうと考えている。現在は消防署等と一緒に、所有者が特定できれば、きちんと管理をするよう文書で通知している。所有者が遠方にいたり、お願いし辛いときには、ご相談いただければ、所有者の方にきちんと管理するようお願いしたいと思う。

**【市民】**

・所有者が亡くなり、子どもたちが年に一回ほど掃除をしたりしている家もあるが、朽ち果てた廃屋もある。市の方からも助成するようなかたちで、何とか更地にしてもらえたらと思う。

<市長>

・空き家対策については、他の地域での対話集会でも出た。今後、空き家はさらに増えていくので、指宿市としても空き家対策は早急にやらなければならないと思っている。県や国も動き出しているので、館長さん方の意見や具体的な事例を基に検討していきたい。

**【市民】**

・健幸のまちづくりを進めるマイレージ制度が始まった。第1回目の抽選応募締切りが8月15日と聞いたが、どの程度、応募があったのか。

・特定検診の受診率が非常に低いということだが、なぜ特定検診を受けなければならないのか、マイレージ制度をなぜ作ったのか、その辺りを市民に徹底して知らせてもらいたい。みんなが検診をして前もって病気がわかれば、医療費の削減につながることを、公民館単位などで市から説明してもらわないと、ただ広報で流すだけではとても無理だと思う。マイレージ制度にしても同じことである。各地区で徹底して知らせてもらわないと、せっかくのいい制度が何もならないと思う。

<市長>

・言われる通りである。制度としてはいいものができても、それを市民の方が実践しないと掛け声だけに終わる可能性がある。国民健康保険の特別会計は、3年前は71億円ほどだったが、わずか3年で7億円ほど増えて78~79億円である。特別会計で足りない分は、皆さんからの税金である一般会計から出さざるを得ず2~3億円入れている。もしそれを入れなければ、他の事業を行い、より皆さんの要望に応えることができる。一人ひとりが健康についてもう少し関心を持ち、みんなで医療費を抑える努力をしようというのが一つの始まりであった。

<総務部長>

・8月15日のマイレージ制度の応募締切りまでに、4,500通の応募があった。また、制度等の説明については、広報紙やホームページ、そして要請のあった地区には担当が出向いて説明をした。今後、いかに周知を図っていくか検討していきたい。

<市長>

・気付いたことは、ぜひ市役所にご意見を寄せてもらいたい。私は、県の市長代表として結核検診の委員になっている。指宿は、結核を含めて特定検診の受診率が低く、医療費は県内でも高い方である。医療費の低い市と比べると、1人当たりの平均が10万円位違う。国民健康保険の被保険者は約15,000人いるので、全体では15億円違うということである。医療費を1割減らすことができれば、億というお金を一般会計から出さなくてよい。みんなで健康づくりを頑張り、何か特典をということでマイレージ制度は始まったが、まだ十分には浸透していないので周知に努めたい。

### 【市民】

・指宿は観光がメインだと思う。観光を何とかしなければならない。その一つとして、菜の花館、知林ヶ島、この辺を活用できないものか。菜の花館については、どうかならないものか県庁にも相談に行った。あそこは69億円を県が出しており、指宿に譲渡してもいいと言っている。取壊しに8億円かかるが、私の計算では5億円もあれば採算がとれるようにできると思う。

・今、海岸、護岸については、すごくよくやっていると思う。しかし、指宿枕崎線は線路が曲がりくねっており、縦揺れ、横揺れがひどい。すぐにはできないと思うが、JRに相談して何とかして欲しい。

・英語教育が、小学校の5、6年からというのはとんでもない話である。幼稚園、保育園の頃から英語教育が受けられるようにできないものか。

<市長>

・指宿枕崎線の揺れを少なくしなければならないという思いは同じである。JR九州本社にも、3度要請に行った。また、海沿いを走る列車であるので、観光スポットとなるような沿線の整備についても、毎年2回本社に行ってお願いをしている。住民からの意向も強いということで、もう一度お願いをしたい。

・海岸、護岸については、浜競馬ができた時代の指宿海岸を取り戻し、防災機能も高める取組みをしている。住民の盛り上がりがあり、本当にありがたい。国直轄の事業として、恐らく国が80億円、県が40億円、合計120億円ほどの事業になる。間もなく明らかになるので、海岸をこうしたらい、何を植えたらい、このような観点で整備をした方がいいといった発想、アイデアをいただきたい。

・菜の花館は、県が60数億円、市が10数億円位、合計80億円位かけて14~15年前にできた施設である。私も最近、施設を見て回ったが、ゲートボール場の天井は破れ、雨が漏るというものではない。そのような施設を市が受け入れ、台風などで大規模な補修が必要になった際、市の税金を投入することに、市民から理解が得られるか心配である。そこで、建物に問題があったときには、県が補修をしてくれれば受け入れると県には伝えている。閉館前は、菜の花館には1年間に2億4千万円の運営費がかかっていた。今でも、機械のメンテナンス等に4,500万円から5,000万円かかっている。健幸のまちとして、菜の花館のプールを使えるようにして欲しいという要望が何回もある。健康になって欲しいという気持ちはあるが、当時でも1年間に20,000人ほどしか利用者がいなかった。200円の料金に対し、一人当たり2000円位の経費がかかっていた。うまく経営をして黒字になるようであればよいが、プールだけで4,500~6,500万円の経費がかかると思う。もし何かあったときに、どの程度の補修費用がかかるのかということを心配している。色々な素晴らしい意見をいただいているので、財政のことを気にしなければ実現したいがそうはいかない。財政再建、財政基盤の確立が、私のマニフェストの一つであった。200億円位の予算の中で、1割にあたる20億円位は財政調整基金を持っていなければ、何かあったときには大変なことになる。これは、市民の協力等により目標を達成できると思う。色々な企業を回ってお願いをしたり、市でもプロジェクトチームを作って検討をしたり、様々な努力をしてきたが、後年度に大きな財政負担が伴うような冒険はできなかった。今日のご意見についても、気持ちは全く同じであるが、できない理由がそこにあ

った。菜の花館関係で、他にご意見はないか。

**【市民】**

・菜の花館の広場は2面あり、その東側をグラウンドゴルフ場として利用している。しかし最近、西側の広場にグラウンドゴルフ場が替わった。東側の広場に、何か計画や予定があるのか。健康づくりの一環として、お年寄りがよく利用しているので、2面ともグラウンドゴルフ場として利用できないものだろうか。

<市長>

・今のところ、予定は全くない。おそらく、芝生の管理等で西側の広場に替わったのだろう。私も見に行って、利用する方の意見を聞きたい。

**【市民】**

・私は、地域女性連に入っており、その中で子育て支援を行っている。指宿は鹿児島県の中でも、少し子どものことを疎かにしているのではないかと感じる。子どもが0歳児のときからお勤めをしている方もおり、保育園や幼稚園が足りず、どこに預けようかと苦労している。私は月に1度、スマイルルームというのをしているが、「指宿市には、子ども館はないの」と言われる。菜の花館を、子ども館にできないものだろうか。図書館もあるが、子どもはどうしてもはしゃいだりする。子ども館の中に、子どもだけの図書館ができればいいと思う。併せて、高齢の方とも一緒に活用できるような菜の花館になれば素晴らしい。

<市長>

・指宿市から、観光の拠点、健康・福祉の拠点、そして子育ての拠点といった3つの考え方を県に出した。例えば、子育て支援センター的な場所、女性連を中心とした団体の活動拠点、そして子どもにとって安心・安全な場所といった考えである。施設の大きな補修等が必要になったときには大きな財政負担が伴うため、県がそれを担保してくれれば指宿市が引き受けて事業を展開できるということで交渉している。子育ての支援センター、子ども館を含めて、指宿として確かに足りないと思っている。だから、そういう意見は大切にしたいと思う。

**【市民】**

・魚見岳裏の階段や知林ヶ島の歩道はよくなったと思うが、九州一の湖である池田湖の開発はあまり進んでいないのではないかと感じる。2月3日に行われたバードウォッチングに私も参加したが、野鳥が23種類もいた。もう少し予算を組んで、蘭傘田池のように湖を一周する遊歩道を造ってもらいたい。遊歩道を整備すると、若い人たちも散歩など色んなことができると思う。また、観光客が来ても素通りするだけのルートになっているように感じるので、ぜひ開発を進めて欲しい。

<市長>

・素晴らしい湖であるので、もったいないと思う。県も遊歩道を造りつつあり、池田湖を散策できるような湖畔の歩道を整備する予定である。これが池田湖だと自慢できるよう、住民の強い声もあることを伝えて整備していきたい。

<産業振興部長>

・池田湖については、県の「魅力ある観光地づくり事業」で、「えぷろんはうす」から小浜までの遊歩道を整備していただいた。以前と比べると、遊歩道はだいぶ整備されてきていると思う。池田湖パラダイスの前には、市が植栽を行い、四季折々の花の風景を楽しめるよう努めている。今後も、県と協議をしながら計画的に整備していきたい。

**【市民】**

・以前は、店舗やまちが集中していたように思うが、最近では区画整理や道路整備もあり、まちづくりがバラバラになっているような気がする。特に丹波校区公民館付近のまちづくりについて、今後どのような展望があるのか教えてもらいたい。

<市長>

・中心市街地の活性化というのは、観光にとっても欠かせないものである。この指宿駅前を含め、一帯をどのようにするか色々と協議をしてきた。このまち、そしてこの商店街への取組みを進めるために、上村副市長を九州経済産業局からいただき、様々な事業を展開しつつある。財政的にも厳

しいときに、なぜ副市長が2人もいるのかという意見もあった。指宿市には、国から2人の職員に来ていただいている。一人は上村副市長で、地域を元気にするために来ていただいた。もう一人、海岸を整備するために国土交通省からも来ていただいた。代わりに市の職員も国へ派遣し、職員交流として勉強をしている。まちづくりに尽力している上村副市長に思いを話してもらいたい。

<上村副市長>

・商店街がなくなりつつあるという現象は、日本全国どこでもある。昨年4月の着任以来、指宿のアーケード街から指宿駅前、そして渡瀬通りほど魅力的でおもしろい所はないと常々言っている。おかげさまで、「ちょっと飲み」が行われたり、ポケットパークでは毎週土曜日に民間の方がイベントを行ったり、商店街にはストリートピアノも設置された。元々そういう力がある地域だと思う。今、若い商店街の方や、商店街とは全く関係のない農業や漁業の方等、異業種の方がグループになって一生懸命活動している。大型店の方が、見た目はきらびやかかもしれないが、丹波校区のこの辺りが、住民のために一番役立っていると思う。商店街の若い人たちが中心となって、国から支援をもらい、アーケードや街路灯の改修等も行われる。間もなくすると、驚くような変化が見えると思う。買い物はしなくても、駅前やアーケード街を折にふれて歩いていただき、賑やかさを作り出すことで、もっとすばらしい中心市街地になると思う。皆さんと一緒に、まちをつくっていききたい。

<市長>

・駅前を含め、この辺りのまちを本当に変えたい。まず駅前から区画整理をして、店舗の集積化、いわゆる商店街形成を行っている市もあるが、指宿の場合は周りから区画整理を行っている。承諾等の問題もあり、中心部分はやりにくかったのだと思う。しかし、何とかしなければならないという思いは、この商店街の方々も非常に強い。何とかしなければならないという気運をつくっていただくと、非常にやりやすい。色々と努力をしていくので、知恵を出し合っていきたい。

#### 【市民】

・これからは、台湾、韓国といった外国人観光客を連れてこなければならない。1万トンのフェリーで山川から奄美大島、沖縄、台湾と巡る。すると、4,000~5,000人の観光客がいつでも滞在することになる。その船の中で、ギャンブルというのも面白いのではないか。一度の航海で何億円というお金が入る。私は、韓国との外国航路をしなければならないと思う。大隅や鹿児島全体を含めた大きな流れを作らなければ、客がそこだけで終わる。ぜひ、行政が前に立ってやってもらいたい。

・鹿児島だけでも、引きこもりやニートが12,700人いる。そのような子どもたちの学校を、菜の花館に造ってはどうか。採算がとれるよう、計算もしている。引きこもりは、日本で70万人、予備軍が155万人、計225万人いる。その子らを、アメリカ郊外に連れて行き、英語や農業をさせられないものかと考えている。私も指宿のために頑張りたい。

<市長>

・ギャンブル観光、大型クルーズ船といった夢のある話をしていただいた。ニートなどの社会的課題を解決するために、指宿でもできることがあるのではというご意見であろうかと思う。

#### 【市民】

・ゆるキャラの計画はないか。

<産業振興部長>

・指宿のゆるキャラとしては、昭和50年代にイッシーブームがあった頃にイッシーの着ぐるみを作製した。その後2年ほど前に、提案公募型の事業で「たまおん」、「ふうぼー」、そして「らんらん」の「たまらん3兄弟」が誕生し、様々なイベントで活躍している。この「たまらん3兄弟」を、指宿のゆるキャラとして売り出している。

<市長>

・イーサキングやくまモンのように爆発的な人気となれば、大変な経済効果が出る。また、何か意見があればいただきたい。